

1 学校教育目標

人間尊重の精神を基盤に、予測不可能な社会で、夢や希望をもって生き抜く力と、豊かな人間性の育成を目指す。

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	関わる全ての人にとって「安心・安全な学校」を目指して ・人権尊重の意識を高める ・生徒一人一人の個性を見出し、個に応じた指導の徹底を図る ・疑問（ふしぎ）をもたせる授業展開を図りキャリア教育に繋げる
○児童・生徒像	・主体的に考え、共に学び続ける生徒 ・他を思いやり、地域と共に歩む生徒 ・心身ともに健康で、たくましく生きる生徒
○教師像	・教育への情熱をもち、常に資質向上に努め、真のプロを目指す教師 ・生徒に寄り添い、情熱をもって職務を遂行する教師 ・社会的責任を自覚し、生徒・保護者・地域から信頼される教師

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

<現状>

- ・PBS を中心とした統一した指導観が徐々に浸透しだしていることで、生徒の自己肯定感の向上が見られている。
- ・生徒会を中心とした諸活動を行うとともに、地域社会におけるボランティア等で活躍する生徒も定着している。

<課題>

- ・ICT 機器を各教員は比較的安定的に利用しているが、組織として効果的な活用方法が見いだされていない。
- ・学校図書館での学習を中心としたメディア活用の充実が必要。

4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R 6	R 7	R 8	R 9	R 10
1	学力向上アクションプラン	○	○	○	○	○
2	豊かな心をもつ生徒の育成	○	○	○	○	○
3	ICT 機器及び学校図書館の有効活用	○	○	○	○	○

5 令和8年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン				
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)				
学習者主体の視点をもった授業改善・学力向上		○令和8年度区調査 通過率68% ○年度末到達度確認テスト 正答率65%				
B 目標実現に向けた取組み						
新規・継続	アクションプラン	対象学年 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)
1 継続	授業の充実	全学年 全教科	年2回	足立スタンダードに即した授業改善と効果的なICT機器を活用した授業の実践	年2回の授業観察時に実施の確認	全ての教員の実施を確認し、効果的な授業方法の工夫を検討する。
2 継続	主体的に取り組む態度の育成	全学年 全教科	通年	宿題や授業等での課題解決のための仕掛けづくり	①保護者アンケート ②生徒アンケート	①適切に課題を出している70%以上 ②自学自習のやり方について示されている70%以上
3 継続	サマースクール	全学年 3教科等	夏季休業日中	・基礎学力の定着 ・小学校教員・学生ボランティアによる支援	事後テスト	正答率10ポイント上昇
4 新規	ICTの活用	全学年 全教科	通年	全ての教科において、ICTを活用した授業の実践	生徒アンケート	関連事項80%以上
5 新規	学習者主体の授業展開の充実	全学年 全教科	通年	足立スタンダード「めあて(問い)」「生徒の活動」「振り返り」の徹底	自己申告時の各教員へのヒアリング	自らの授業実践を振り返らせ、意識の高まりを見取る

重点的な取組事項－２		豊かな心をもつ生徒の育成	
A 今年度の成果目標		達成基準	
ウェルビーイング達成のため自己有用感の向上		生徒意識調査における関連質問項目の向上	
B 目標実現に向けた取組み			
項目	達成基準	具体的な方策	
PBS（ポジティブな行動支援）による自己肯定感・有用感向上	<ul style="list-style-type: none"> 区学力調査・生徒意識調査・校内アンケートの関連項目の肯定的割合 80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 校内研修 小中連携研修 生徒会活動の充実 	
キャリア教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> 区学力調査・生徒意識調査のキャリ形成意欲について肯定的割合 60%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 計画的なキャリア教育の充実 外部講師を招へいした授業・行事の充実 	
教育相談の充実	<ul style="list-style-type: none"> 不登校出現率、前年度比 1 ポイント減 WEBQU の学校満足度結果 2 回目の上昇 	<ul style="list-style-type: none"> 全生徒の指名制（全教員対象）による 2 者面談実施 教育相談部会の実施（毎週） 	
WEBQU の有効活用	<ul style="list-style-type: none"> WEBQU の学校満足度結果 2 回目の上昇 	<ul style="list-style-type: none"> 実施後に学年による分析・判断・実施 	

重点的な取組事項－3		ICT 機器及び学校図書館の有効活用	
A 今年度の成果目標		達成基準	
ICT 機器の活用及び学校図書館の活用による「主体的・対話的で深い学び」の実現		区学力調査の「自ら学ぶ力」についての関連設問で肯定的な回答 70%以上	
B 目標実現に向けた取組み			
項目	達成基準	具体的な方策	
AI ドリル有効活用	<ul style="list-style-type: none"> 生徒活用率 100% 生徒アンケートで、活用したという回答 80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 放課後の AI ドリルの時間の設定 授業や家庭学習での活用促進 	
授業での ICT 活用	<ul style="list-style-type: none"> 生徒アンケートで、授業で ICT 機器を活用していると答えた割合 80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 管理職による授業観察 ICT 支援員や担当教員による活用提案 	
学校図書館の活用	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の貸し出し冊数前年度比+5point 昼休みや放課後の学校図書館の有効活用 	<ul style="list-style-type: none"> 学校司書を中心とした学校図書館の充実 昼休みや放課後の学校図書館活用者の増加 	